

第1学年 道徳科 学習構想案

日 時 令和7年11月21日（金）第5校時
 場 所 1年1組教室
 指導者 教諭 井上 加代子

1 学習構想

主題名	たいせつな家ぞく（内容項目C(13)家族愛、家庭生活の充実）	
ねらいと教材	(1)ねらい 余震が続く危険な状況下での家族の行動から、よし子の気持ちを考えることを通して、家族を敬愛し、感謝の気持ちをもって暮らしていこうとする心情を育てる。 (2)教材名 わたしのたからもの 出典:「平成28年熊本地震関連教材 つなぐ 1・2年（熊本県教育委員会）」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	命がけで救い出してもらったランドセルを抱きしめるよし子の気持ちを、多面的・多角的に考えようとしている。	家族の思いや温かさに気付き、これまでの経験を振り返り、自分の家族への感謝の気持ちを考えようとしている。
目指す児童の姿		
家族を敬愛し、感謝の気持ちをもって暮らしていこうとする児童		
主題に迫る学習課題（本時）	本主題で働かせる見方・考え方	
どうしてランドセルが、わたしの「たからもの」になったのだろう。	余震が続く危険な状況下での家族の行動から、よし子の気持ちを多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めていくこと。	
内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導		
特別活動	道徳科	各教科
学級活動 「そうじのしかた」 ○ 掃除の仕方を知り、学校や家庭で相手のために役割を果たそうとする態度を養う。 「ひなんりゆっくになにいれよう」 ○ 家族と避難所に向かうとき、避難リュックに何をいれようか考え、備えることの大切さに気付く。 「あたらしい1年生をむかえよう」 ○ 新しい1年生に喜んでもらえるように、1年前の自分たちを振り返りながら、学校のことを分かりやすく伝えたり、学校の楽しさを伝えたりするための準備や関わり方を考え、温かく優しい気持ちで迎えることができる。 「たいせつないのち」 ○ 動植物すべてに命があることに気付くとともに、人の命の大切さに気付く。また、命あるもの全てに優しく接することができる。	「わたしのたからもの」(本時) C(13)家族愛・家庭生活の充実 主題名 余震が続く危険な状況下での家族の行動から、よし子の気持ちを考えることを通して、家族を敬愛し、感謝の気持ちをもって暮らしていこうとする心情を育てる。	生活 「いくぞ！がっこうたんけんたい」 ○ 自分の生活を支えている人に質問し、働く人々の役割について考え、それらが自分の生活と関わっていることに気付くことができる。 生活 「自分でチャレンジ大きくせん」 ○ 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家の人のことや自分にできることなどについて考え、家庭での生活は互いに支え合っていることがわかり、自分の役割を積極的に果たそうとすることができる。 国語 「てがみでしらせよう」 ○ 自分の身の周りで、お世話になった人へ感謝の手紙を書くことができる。

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）		
<p>本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目 C(13)「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどして家族の役に立つこと」を基にしたものである。</p> <p>小学校低学年において、児童は家族から守られ家庭生活において受け身の立場であることが多く、してもらって当たり前という意識がある。家族は、子供の心身の成長を支える上で大切な存在であり、温かな家庭があるからこそ、のびのびと挑戦したり、失敗したりしてたくましく世の中を生き抜く力を育むことができる。父母や祖父母が自分や他の家族に対して、成長を願い無償の愛で育ててくれている様子に気付くことから敬愛する心を育てたい。</p> <p>指導に当たっては、家族の行動からよし子の気持ちを考えることを通して、家族の温かい気持ちや思いを感じとらせ、これまでの自己中心的な考え方から、自分たちに愛情や願いをもって育ててくれている家族に対する感謝の気持ちと、その大切さに気付かせていきたい。</p> <p>また、防災教育の視点から、家族間の繋がりや協力が災害に備えるために重要な役割を果たすことや、家族を災害から守りたいという愛情が防災意識を高め、災害が起きても共に困難を乗り越える力を育みたい。</p>		
本主題における系統		
<p>小学校第1学年及び第2学年 内容項目 C(13) (家族愛・家庭生活の充実)</p> <p>父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。</p> <p>教材名「わたしのたからもの」 主題名「たいせつな家ぞく」</p>	<p>小学校第3学年及び第4学年 内容項目 C(13) (家族愛・家庭生活の充実)</p> <p>父母、祖父母敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。</p> <p>教材名「小さなおとうさん」 主題名「家族にきょうりよく」</p>	<p>小学校第5学年及び第6学年 内容項目 C(13) (家族愛・家庭生活の充実)</p> <p>父母、祖父母敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。</p> <p>教材名「卵焼き」 主題名「家族の幸せのために」</p>
児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）		
<p>本学級の児童数(8名)</p> <p>■主題に関する意識の状況</p> <p>(1) 家族のことが好きですか。 とても好き・・・7人 まあまあ好き・・・1人 嫌い・・・0人</p> <p>(2) どんどころが好きですか。</p> <p> ・やさしいところ ・いっしょにねるところ ・おはなしするところ ・おかしをかってくれるところ</p> <p> ・ごはんをつくってくれるところ ・がっこうにおくってくれるところ ・あそんでくれるところ</p> <p>(3) 家族のために何かしていますか。 している・・・2人 すこししている・・・2人 していない・・・4人</p> <p>■考察</p> <p>本学級の児童は、明るく素直であり、お互いに協力したり助け合ったりすることができる。しかし、自分の思いを書いたり、相手に伝えたりすることに苦手意識をもっている児童が多い。道徳の学習が好きな児童が多いが、少人数という環境の中で多様な意見が出にくい。帰りの会やペア学習において対話する場を設定し、安心して思ったことを表現できるようにしたい。</p> <p>また、主題に関する意識の状況から考察すると、家族が好きだという素直な思いはもっていても、家族のために役に立ちたいという気持ちは薄い。生活科の学習と連動して、家族のために行動できた際には、役立つ喜びを実感できるようにしていきたい。家族は、児童への深い愛情から様々なことをしてくれていることを押さえ、手紙の中で、感謝や愛情の気持ちを表現させたい。</p>		
教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）		
<p>教材「わたしのたからもの」は、2016年熊本地震で前震によって自宅が傾き余震が続く中、子供たちのために学習道具を取り出したいと決死の覚悟で自宅へ戻っていく家族と、その帰りを不安げに待つよし子が描かれている。また、暗がりの中、必死でよし子の手を引いてくれた姉や、ランドセルが汚れないように丁寧に袋をかぶせてくれた父の姿なども描かれており、家族の温もりや大切さを十分に感じ取ることができる教材である。</p> <p>本教材を通して、家族の行動から、よし子の気持ちを多面的・多角的に考えることを通して、家族に対して敬愛の心を持ち、家族がかけがえのないものであると感じられるようにしたい。また、自己を振り返る際に手紙という形で感謝や愛情の気持ちを表現できるようにしたい。</p>		

3 指導に当たっての留意点

本校の校内研究のテーマは、『状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成』

【視点1】状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫

手立て1：単元配列表を作成し、各教科横断的な学びになる工夫

○本単元で、家族を敬愛する心について学んだことを、生活科の「じぶんでチャレンジ大作戦」の学習に生かすことにより、主体的に行動する態度へとつながるようにする。

手立て2：子供が問いをもち、主体的に学ぼうとするための資料提示や、課題設定の工夫

○事前に行った「宝物」についてのアンケートを活用し、宝物＝大切なもの、かけがえのないものという意識をもち学習課題に迫るようにする。

○主発問の前に、家族を待つよし子の気持ちに共感することで、家族を思う心を引き出すようにする。

手立て3：子供が自らの意思で表現したり、行動したりする場の設定

○ランドセルを強く抱きしめる場面を実際に体験（役割演技）することを通して、よし子の思いを子供たちの言葉で表現できるようにする。

○振り返りの場面では、家族へ「手紙」を書くという表現方法で、道徳的価値について考えを深めるようにする。

【板書計画】

ふりかえり
かぞくへ かんしゃの手がみをかこう

よし子さん



ランドセルをつよく抱きしめながら

学習課題
「わたしのたからもの」

おとうさん、おかあさんの
つまったランドセルだから
あたたかいになった。
おもいの

おとうさん、おかあさん
どうしてランドセルとりに
いったのだろう。

おねえちゃん
「よしこ、ぜったいにわたし
の手をはなさんでね。」

くまもどじしん
いえがかたむいて、いまにも
こわれそう

どうしてランドセルが、わたしの
「たからもの」になったの
だろう。

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

本時の展開【電子黒板】

- ・教材文 DVD 視聴

本時の教師の説話を聞く【電子黒板】

- ・動画を視聴する

令和2年7月豪雨災害の「ランドセル」にまつわる話を聞いて、家族の温かさを感じ取らせ家族への感謝の気持ちを更に高める。

4 本時の学習

(1) ねらい

余震が続く危険な状況下での家族の行動からよし子の気持ちを考えることを通して、家族を敬愛し、感謝の気持ちをもって暮らしていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>①「自分の宝物について」伝え合う。 ◇自転車 ◇ぬいぐるみ</p> <p>②「よし子さんの宝物であるランドセル」について話し合う。 ◇なんで、宝物かな。 ◇わたしも、ランドセルが宝物だよ。</p>	<p>○事前にとったアンケートを活用し、それぞれの宝物について自由に話し、本時の学習課題につなげるようにする。</p> <p>○ランドセルを提示することで、児童の関心を高めるようにする。</p>
		<p>【学習課題】 どうして「ランドセル」が、わたしのたからものになったのだろう。</p>	
展開	30分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。</p> <p>①「お父さんやお母さんは、危ない中、どうしてランドセルを取りに行ったのか」考える。 (共通実践事項1) ◇勉強ができないとかわいそう。 ◇よし子が大切にしているものだから。 ◇ランドセルがあると、学校に行けるから。</p> <p>②「よし子はどんな気持ちで、お父さん達の帰りを待っていたのか」話し合う。(共通実践事項2) ◇お家がくずれたらどうしよう。 ◇お父さん、お母さんが心配。</p> <p style="border: 1px solid black; text-align: center;">【中心発問】</p> <p>③よし子は、ランドセルを強く抱きしめながら、どんなことを考えていたでしょう。 (共通実践事項2)</p> <p>◇命がけでとってきてくれてありがとう。 ◇ケガするかもしれないのに、わたしのためにありがとう。 ◇お父さん、お母さん、大好きだよ。</p> <p>④「どうして、ランドセルが宝物になったのか」話し合う。 ◇危ない中、命がけで取ってきてくれたものだから。 ◇お父さんとお母さんの気持ちが詰まっているから。</p>	<p>○4月の防災月間で取り組んだ「くばられたあたたかい心」を想起し、熊本地震の状況を補足する。</p> <p>○挿絵や当時の写真などを提示し、家が傾き危険な状況であることを押さえるようにする。</p> <p>○家族の帰りを待っているよし子の気持ちを想像し考えることで、中心発問のよし子の考えにつながるようにする。</p> <p>○よし子の気持ちを、多面的・多角的に考える手立てとして、ランドセルを使った役割演技を取り入れ、よし子の気持ちに迫るようにする。</p>
			<p>評価の視点1</p>
終末	10分	<p>3 自分自身を振り返る。(共通実践事項3)</p> <p>① よし子のように、家族に「ありがとう」の気持ちを届けるために手紙を書く。 ◇病気がたとき、看病してくれてありがとう。 ◇毎日、優しくしてくれてありがとう。 ◇ご飯を作ってくれてありがとう。</p> <p>4 教師の話を聞く。</p> <p>① 球磨村にも素敵な「たからもの」があったことについて動画を視聴する。</p>	<p>○学習したことを振り返りながら、自分の生活を見つめ直し、家族を思う気持ちを「手紙」という形にして振り返るようにする。</p>
			<p>評価の視点2</p>

【評価の視点1】 命がけで救い出してもらったランドセルを抱きしめるよし子の気持ちを多面的・多角的に考えようとしている。

(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】 家族の思いや温かさに気付き、これまでの経験を振り返り、自分の家族への感謝の気持ちを考えようとしている。(方法：発言・ワークシート)